

# 歴史的な核兵器禁止条約を採択 国連会議 加盟国約3分の2 122ヶ国が賛成

## 府職の友 本庁ニュース

行 大阪府職労  
内線3746

人類史上初めて核兵器を違法化する核兵器禁止条約が7日、ニューヨークの国連本部で開かれていた「交渉会議」で、122ヶ国の圧倒的多数の賛成で採択されました。オランダが反対、シンガポールが棄権しました。

採択が決まった瞬間、議場は総立ちの拍手から歓声、そして抱擁へと変わり、エレン・ホワイ特議長、各国政府代表、市民社会代表は数分間続いた歓喜の渦の中で新たな歴史の幕開けを祝福していました。

採決に際し、ホワイ特議長は全会一致での採択を提案しましたが、米国の「核の傘」の下にある国で唯一会議に参加して

きたオランダが投票での採決を提案。投票結果は、禁止条約交渉開始と早期締結を要請した昨年12月の総会決議の113カ月の賛成を上回り、国連加盟国の約3分の2にあたる国が賛成票を投じました。

採択後には、40人近くの政府代表が歴史的な壮挙をたたえあいました。

拍手がタブーの国連会議の常識を打ち破り、発言が終わるたびに、大きな拍手が湧くなど、高揚感のある雰囲気の中での討論となりました。

**被爆者と市民社会が  
条約に大きく貢献**

なかでも「ヒバクシャ」の果たした役割に大きな感謝が表明されました。南アフリカのティセコ大使は「今日ここにいて『ヒバクシャ』に賛辞を

送りたい。彼らがいたからこそ、この条約が可能になった」と述べました。

会議の正式な構成メンバーであった市民社会にも、多くの代表がエールを送りました。「この交渉の道義的な羅針盤を示した。交渉の真の『同僚』だ」(チリ)、「強力な条約をつくるうえで、重要な貢献をした」(ブラジル)、「この歴史的成果は、市民社会の積極的参加抜きにはあり得なかった」(エジプト)。

**被爆者にとって大きな喜び  
―日本被団協が会見**

日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の田中熙巳代表委員(85)らは8日、核兵器禁止条約が国連で採択されたのを受けて東京都内で記者会見し「原爆被害者にとって、核兵器禁止条約の採

択は、誠に大きな喜びです」と表明しました。

田中氏は、核保有国が参加せず、唯一の被爆国である日本政府も参加していないことは、悔しいとのべ「『ヒバクシャ国際署名』をはじめ、世界で『核兵器はいらない』という声を大きくしていくことで、核保有国と同盟国の条約参加を求めていきたい」と語りました。

声明を読み上げた和田征子事務局次長(73)は「ヒバクシャ国際署名連絡会」が集約した約300万人分の署名目録を交渉会議のホワイ特議長に手渡したことを振り返り、「被爆者の最終目標は、核兵器廃絶です。本当に画期的な条約ですが、まだやらなくてはならないことはたくさんあります」とのべ、核兵器廃絶の実現をめざす決意を語りました。